



# ジュゴン Vol.108

## ちゃんぷるニュース

### SDCC 2020. 1. 28

Save the Dugong Campaign Center

## CONTENTS

- 2/3 情勢・7万本杭打ち工事断念を  
● ジュゴン訴訟公開審理開始へ
- 政府交渉報告
- 安和の海上行動
- 4/5 粘り強く続く各地の行動
- 6/7 わんさか通信★ジュゴンのわ
- 本の紹介



元日の朝未明6時半。今年こそおめでとうと言える年にと願いつつ辺野古に着く。私はネクタイとスーツ姿で車を降り、浜に向かった。

「来年の初興しは豊さんの祈願で始めたい」と電話してきたのは東恩納琢磨だった。SDCC 立ち上げ前の2000年、ヨルダンのアンマンでIUCNが開催されたその時、彼は大会に参加して辺野古のジュゴン保護を訴えてくれた。その年、私がそれに呼応し「ザンの海」を歌ったのは他にもない。古よりジュゴンを平和の神と崇拝してきた沖縄県民と、真逆の立場に立つ日本国家の天皇と、その天皇を支える全国の神社組織との闘いの根が、ジュゴンをめぐる国体護持問題として存在するからであった。その為、解決不可能にも思えるこの問題を解決に導こうと昨年出版したのが「琉球文明の発見」であり、そして出版記念コンサートであった。

## 2020年初ウガン

思えばこの20年間無事にこれたのも、SDCC 蜷川義章さんと仲間達のお陰であり感謝するばかり。また昨年、辺野古大浦湾が世界に残すべきホープ・スポットに選ばれたことも嬉しいニュースであった。とは言え米国とイランのように反宗教国家同士の対立は激化。パリ協定が発足しても米国離脱のままでは温暖化は止められそうにない。益々日本列島を襲う災いが心配である。かくなる上は龍宮神の崇りの鎮め方を考えた方が良い。

白々と夜が明けごった返す人ばかりから琢磨が現れ私を案内した。浜には歌三線の舞台にテントが張られ。海に向かって祈願するためのブルーシートが敷かれていた。琢磨は指示通り重箱二つと泡盛一升瓶二本、ウガンセットのピンシーを準備。そこへ吉川秀樹さんと高垣喜三・縁夫婦が現れ「何か手伝うことは」というので、急いで火の神用の石3個を探してもらった。午前7時、私は3個の石を三角形に添え置き、天の神・地の神・龍宮の神の三神にお通しする為の特製の火の神に手を合わせ、言霊を発した。全てウチナグチでの祈り。

左隣に糸数慶子(前参)、伊波洋一(参)、高良鉄美(参)。右に稲嶺進前名護市長、安次富浩ヘリ基地反対協代表、山城博治沖縄平和運動センター議長、屋良朝博(衆)や県議など、およそ300人が手を合わせ見守っていた。それはSDCCが漸く平和運動の場で認められた証にも思えた。また集会後段に吉川さんがジュゴン訴訟関係者などからの国際連帯メッセージを紹介したことも希望を与え、さらに良かった。感謝!

海勢頭豊(うみせど ゆたか:SDCC 共同代表)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)



辺野古の浜で元旦の初ウガン(本面)



1周年を迎えた首相官邸前のスタンディング(4面)

情勢 事務局から

## 7. 1万本くい打ち工事の設計変更申請を断念させましょう！

防衛省は12月25日、辺野古新基地建設の軟弱地盤「改良」工事を検討する「技術検討会」（委員長は日運輸省出身）は、総工費を9300億円（当初予算の2.7倍）、工事期間は「承認」後12年、くい打ち工法を一部変えて7.1万本とする試算を明らかにしました。普天間基地の返還を「22年度またはその後」とする日米合意が、30年代になることが確実になりました。しかし、河野防衛大臣は「辺野古が唯一の解決策ということに変わりはない」と辺野古新基地建設に固執しています。世界一危険な普天間基地を抱える地元の宜野湾市長は「心情的には長い」「計算上は12年かもしれないが…」と、政府の「1日も早い危険性除去」との口だけ姿勢に不信感を表しています。玉城デニー沖縄県知事は「県試算では総工費2兆6500億円、完成まで13年以上かかる工事は直ちに中止すべき」と、防衛省の設計概要変更申請を認めない立場を明らかにしています。報道各紙も社説で『『原点』に返って出直せ』（朝日新聞）、「辺野古埋め立て 血税の浪費直ちにやめよ」（琉球新報）、「新基地建設完成まで13年 工事中止し別の道探れ」（沖縄タイムス）と計画の破綻を厳しく批判しています。



2012年に日米両政府は、在沖海兵隊19000人のうち9000人をグアムやハワイに移転することで合意。米国政府は2024年10月から25年3月にはグアム移転を開始し、1年半かけて完了することを地元議会に明らかにしています（東京新聞5月4日）。私たちを含む日米NGO33団体などが連邦議会に働きかけた結果、2020年米国防権限法は「国防長官はインド太平洋での米軍再編計画の進捗を180日以内に米議会に報告すること」を義務付けました。米国サンフランシスコ連邦裁判所で闘われているジュゴン訴訟控訴審は1年になりました。昨年9月に来日した国際自然保護連合（IUCN）種の保存委員会海牛目類専門家グループが明らかにした「日本のジュゴンは絶滅の一步手前である」「基地建設がジュゴンの餌場、海草藻場への影響を懸念する」との意見は、国防総省が2014年4月に提出した「基地建設はジュゴンに影響しない」とする判断は誤りであったことを証明しています。辺野古新基地建設計画が莫大な工事費を浪費し、自然破壊以外の何物でもないということが明らかになっている現在、IUCN海牛目類専門家グループの意見はジュゴン訴訟控訴審に大きな影響を与えるに違いありません。

### ジュゴン訴訟控訴審の公開審理実現に向けて



昨年1月、原告が起こしたジュゴン訴訟控訴審が始まって1年。2018年8月の連邦地裁判決を不服として控訴審で原告が求めていることは①国防総省は国家歴史保存法402条にある「考慮の手続き」（地域団体や環境団体と協議していない）をしていない。②「ジュゴンに影響はない」とする国防総省の報告書は誤りである。③工事の差し止めについて連邦地裁に考慮するように差し戻しを、などです。裁判の仕組み上、書面審理の対象は国防総省が提出した2014年4月までの「行政文書」（報告書）です。だから、沖縄ジュゴンの危機を米国政府、議会、国際世論に訴えて、国防総省報告書の誤りを具体的に指摘することが重要になります。

①考慮の手続きについては、翁長知事（当時）が18年4月に国防総省から協議がなかったと県との協議を求める手紙を送っています。地裁判決にも明記されています。②「ジ

ュゴンに影響はない」とする国防総省報告書の誤りは、IUCN海牛目類専門家グループの意見「ジュゴンが絶滅の一步手前」「基地建設によるジュゴンの餌場、海草藻場への影響が懸念」からも明らかです。さらに、辺野古新基地建設が軟弱地盤などで見通しが立たず、しかも世界で最も重要な海域「ホープ・スポット」に選ばれた辺野古大浦湾の自然環境を破壊することを国際世論が許すはずもありません。米国連邦議会は国防総省に、インド太平洋での米軍再編計画の進捗を180日以内に報告することを2020年国防権限法で求めました。在沖米海兵隊は2024年後半からグアム移転が始まります。建設の目途がつかない辺野古新基地の必要性が問われるのです。2月3日米国連邦控訴審裁判所の公開審理が開かれます。



（事務局・蛭川義章）

報告

# 11月政府交渉～防衛省、環境省、外務省



11月29日に私たちSDCCは、防衛省、環境省、外務省と交渉を行いました。例年4月と11月に政府交渉を行っており、今回の交渉では、署名「沖縄ジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナを守ろう」(以下署名)を7,123筆提出し、3年間の累計は26,505筆になりました。

防衛省交渉では、ジュゴンA・Cの行方不明について調査範囲を「沖縄島、古宇利島周辺」に拡大することを確認してきました。9月の第21回環境監視等委員会(以下委員会)では、委員から「行方不明のジュゴン調査範囲を周辺離島を含めて広げるべき」「航空調査の方法を考える必要がある」との意見に対し「事業目的でない」と却下していました。しかし11月の第22回委員会では、一転して調査範囲を広げることを表明しています。これは、9月24日～26日に日本で開催されたIUCN海牛目作業部会の来日・ワークショップが大きく影響していることは明らかです。

環境省交渉では、署名を7,123筆提出しました。環境省では、IUCN海牛目類専門家のワークショップでの「沖縄ジュゴンが日本で8番目の絶滅哺乳類になる恐れが極めて高い」との厳しい指摘に対して、「今年度予算で渡名喜島、波照間島、西表島でのジュゴンの食み跡調査をする。来年1～3月に西表島の住民とジュゴンについて勉強会

をする」と前向きな回答を得ました。しかし、ジュゴンAの行方不明調査などについて環境省のホームページで呼びかけることには消極的でした。また「大浦湾の軟弱地盤問題」でも「事業者が適切に対応すると思う」と逃げ腰の態度でした。

外務省交渉では、IUCN海牛目類専門家の来日の情報は入っていましたが、ワークショップの具体的な内容は把握していませんでした。

総じて今回の政府交渉では、IUCN海牛目作業部会の来日・ワークショップが、防衛省・環境省に大きな影響を与えていることが明らかになりました。(首都圏 三村昭彦)



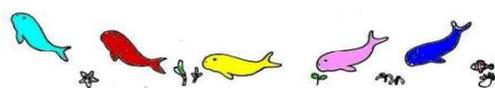
環境省に署名を提出しました

## 12・3安和海上行動～カヌー隊に参加して

この日は辺野古の新基地建設に使われる土砂が、安和の琉球セメント棧橋から海上搬出されるようになって丁度一年の節目の日でした。その為、平日にも関わらず、カヌー66人、船を合わせると海は80人強、陸には150人も人が結集しました。初めての安和での海上行動で、沢山の人数で行動することに不安もありましたが、仲間の大結集により、なんと棧橋からの土砂搬出は中止されていました！海上集会は、平和丸からのシュプレヒコールの後、へり基地反対協から安次富さんの力強い「新基地ノー」のスピーチで始まり、オール沖縄から稲嶺さんの「海にも陸にも基地は造らせない」話、県議の方々のスピーチ、各島ぐるみからの挨拶。特に、本部町島ぐるみからは「古里の土砂は使ってほしくない」との切実な訴えがありました。辺野古の新基地建設を阻止するため、辺野古に結集しよう。安和からの土砂搬出を阻止しよう。(関西 岡村藤美)



カヌーに陸上から声援があがりました



沖 縄

闘いの歴史受け継ぐ本部町島ぐるみ会議



昨年は、私を含め本部町島ぐるみ会議にとって、辺野古埋め立て土砂海上搬出阻止の闘いに関け、暮れた1年だった。そして今年もそんな予感がする年明けとなった。しかしそんなことは言ってもらえない。1日でも早く工事そのものを止めなければならぬ。

だが現実にはなかなかそうはいかない中、少しでも工事を遅らせ予定を狂わせる現場での地道な取り組みが求められる。

本部島ぐるみの琉球セメント安和棧橋や本部塩川港での連日の取り組みはそのことの実体化であると同時にもう1つの重要な役割を担っている。それは運搬船に積み込まれる土砂ダンプの台数チェックだ。一昨年12月3日から始まった投入土砂の海上搬出。現在に至るまでの積み込みダンプ数をすべて把握している。これが土砂投入から1年たっても防衛局の埋め立て計画総土砂量の1%台の進捗であるとの根拠になっている。

防衛局は積み出し作業の目の前で我々が台数チェックをしているのを見ており、はじき出した投入土砂量を否定することはできないのだ。

「着々と進む工事」の論調を打ち破り、逆に展望のない工事見通しを広く県民や全国、世界に発信しなければならない。

「勝つ方法はあきらめない」このためにも必要だ。

そんな思いを持ちながら本部島ぐるみメンバーは早朝7時から午後6時ごろまで安和で、塩川で粘り強く取り組んでいる。ダンプチェックは途切れさせるわけにはいかない。百数十名の登録がある本部島ぐるみと言っても常時活動できるメンバーは限られる。そのメンバーでも仕事や農作業の合間での、また地

域での各種役員やボランティアを担いながらの活動であり、常に調整し合っでの取り組みとなる。

今年も、さらに昨年秋に強行されようとした米海兵隊による本部港の軍事利用に引き続き対決する課題もある。

20年を超える闘いで2008年「自衛隊のP3C対潜哨戒機送信所建設計画」を断念させた歴史を持つ本部町民。粘り強く闘うしかない。(沖縄 高垣喜三)

**土砂投入必要量の1%**

**新基地完成時期は不明**

**長期化 普天間放置に**

沖縄防衛局は2018年12月14日に辺野古埋め立て区域(①)に土砂の投入を開始し、今年3月には埋め立て区域(②)でも埋め立てを開始した。1年間投入された土砂の量は、新基地建設全体の必要な総量の1%。大浦湾側では水面下90mの軟弱地盤があり政府は地盤改良を計画するが、予算や工期が途切れた。新基地建設そのものの完成時期が不明なのは、普天間飛行場の危険な除去が放置され続けているを意味する。(面談)

問題を抱える。県が策定した県外土砂搬入による外来種の侵入を防止する条例では、搬入90日前までの届け出を事業者が義務付け、対策を求めている。県内土砂を使用した辺野古側が年間1%しか土砂を投入できないことを踏まえれば、大浦湾側の埋め立ての長期化は必至だ。玉城デニー知事は埋め立て承認撤回を取り消した直

沖縄タイムス2019.12.14

東 京

2年目を迎えた官邸前スタンディング



2018年12月14日、辺野古の海への土砂投入が開始されました。当時は、3日連続の抗議行動が官邸前で行われていましたが、その翌日からの行動予定が無いことを知った首都圏在住のリタイヤしたウチナンチュ達が、「一人一人の力は小さく弱いけど、今できる形で抗い続けて行こう」と、12月17日から、毎日官邸前でのスタンディングを開始しました。

雨の日、酷暑の日、台風や小雪のちらつく日も、日祝日以外の月曜日から土曜日まで、毎日午後4時から6時



11月政府交渉後に駆けつけたSDCCメンバー

まで、官邸前でスタンディングが続けられました。当初、ウチナンチュだけで開始したスタンディングは、日を追うごとに賛同した沖縄出身者以外の人たちが馳せ参じてくれるようになりました。

沖縄音楽を流しながら、手作りバナーや牧志治さんの大浦湾の写真、沖縄の新聞記事など、掲示して、時には静かに、時には賑やかに、アピールするようになりました。往来の人たちは、賛同する人もいますが、否定的な意見の方もいます。話し合うきっかけになっていることも大事なことと思って、対応しています。

このスタンディングで、辺野古で起こっていることを、少しは情報提供して、「絶対にあきらめない！」という沖縄の強い意志を届けることが出来たのではと、思います。

昨年12月17日、スタンディング1周年という事で、マイクを持ち込み、思いのたけを官邸にぶつけ、その後、場所を移して、スタンディングに関わるようになった経緯などを語り合いました。「理不尽で不平等な沖縄の現状を知り、ほぼ毎日スタンディングするようになった」と言う方も。

金曜日は、ギターを持った女性が来て、みんなで歌を歌いながら抗議の意思表示をするようになりました。「普通の人達がはじめたこのスタンディングは、勇敢で善良な市民活動の原型をみているようだ。この女性たちの勇気と行動力、持久力に感嘆する」と語り、今年もギターを奏で、美しい声を響かせています。(首都圏 宮城詔子)

# 「 沖縄・辺野古につながる自然と生きる 」トーク&ミニライブ

12月14日、文京区民センターで沖縄在住の写真家今泉真也さんのスライドトークと MILK さんのミニライブが開かれました。しかし当日「楽器使用は禁止」と施設側からクレームがつきライブは中止となりCDで歌と映像を流しましたが、生演奏が聞けず残念でした。

今泉真也さんは高校時代に沖縄に移り住み、素潜りやシーカヤックなどアウトドアをこなし沖縄の海を撮影しています。スライドを見ながら、ジュゴンの見える丘からの景色で海水の説明や海の生物、人々の暮らしについて話されました。沢山の写真の中にジュゴンが海亀と仲良く泳いでいる写真がありました。今は中々見る事が出来ませんが2度もジュゴンに会ったそうで写真絵本も刊行されています。これからも一貫して沖縄の人と自然のいのちについて発信を続けていこうです。私達も辺野古・大浦湾の生き物たちを守るために土砂投入を阻止し、新基地建設を断念させるために頑張っていきますよ！

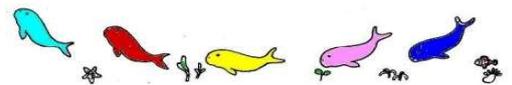
(首都圏 矢敷克子)



写真家 今泉真也さんのスライドトーク

## PHOTO

12月3日 安和会場行動にて  
カヌーと船を合わせると海は80人強、  
陸には150人もの人が結集しました



11月29日 対政府交渉(外務省)にて。「希少種への影響としてオスプレイなどの軍事訓練を中止するように米軍に働きかけますか?」という質問には「小さいことなのではない?」との返答



# シリーズ じゅごんの里ツアーで学ぶ (その3)



## ～ 宮古島とつながる ～



去年のじゅごんの里ツアー後、足を延ばして宮古島に行きました。友人に連れてもらったのは「サカリバナ」のライトアップ。一夜限り咲く、枝から垂れ下がった花火のようななんと幻想的な花でした。さとうきび畑に青い海ゆったりりのんびりのはずの宮古島が…。

目にしたのは自衛隊配備の強行でした。千代田ではミサイル基地建設が進み、訪れた時は予定地だった保良(ぼら)では、今弾薬庫建設が強行されていて、住民は座り込んで抗っています。そして、野原(のぼる)には空自のレーダー基地が島内を威圧するように建っていました。



忙しい中、案内してくれたのは「ていだぬふあ 島の子の平和な未来をつくる会」共同代表の楚南さん。学童の仕事をし、子育てを、座り込みもするとモバワフルな女性

で、出会えて元気をもらいました。

千代田のミサイル基地は、道路を挟んでさとうきび畑が広がり、5mのところには民家があります。基地内に自然信仰の拝所である御嶽が半分の広さになって取り込まれ、もうふらっと立ち寄ることができなくなっていました。保良の弾薬庫

から民家までの距離は200m、500m以内に小さな集落が入ってしまいます。まるで島全体が基地のようで怖くなりました。土地を奪われ、戦争の訓練が行われる、有事の時だけでなく、日々の暮らしが壊されていく。

いったい何のため、何を守ろうとしているのか。この国は島に暮らす人々のことはまったく目に入っていない、住民を守るなんてことは考えていないとわかる。捨て石なんだ…背筋がゾッとしました。国の言う安全保障って何でしょう? 「軍隊は住民を守らない」とわかっている。楚南さんは、子どもたちに「戦争にならないよね」と聞かれて答えに詰まったという。胸に突き刺さる。

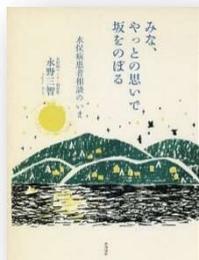
自分の住む場所に基地が造られたら…。そんな暮らしを受け入れられる…?

南西諸島で強行される自衛隊ミサイル基地配備にNOの声を挙げないといけない。

さとうきび畑の向こうにひろがる青い海を眺めながら、基地がなく安心して暮らせる島になってほしいと願った。宮古島で起こっていることが自分とつながりました。(関西 池側恵美子)



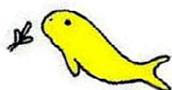
### 「みな、やっとの思いで坂をのぼる — 水俣病患者相談のいま」 永野三智著 (発行:ころから)



過去の公害問題だと思っていた水俣病が今も終わっていないと知る。2004年の関西訴訟最高裁勝訴の後、背中を押されて自分も水俣病だと認定申請する人が増える。水俣病センター相思社で患者相談を一手に引き受ける永野三智さんに、今も様々な声が届く。恩師の裁判支援を通して水俣病事件を学び考え、「今日ただいまから、私たちは国家権力に対して立ち向かうことになったのでございます(第1次訴訟)」と始まった長い闘いと、「水俣病の症状がどんどん出てきて、自分の体はどうなっていくのだろう」と不安やつらさを訴える患者たちの声に日々向き合う。それらが本書に綴られている。

ていた。その平穏な集落にチッソがやってきた。日本経済を下支えしたチッソは、有機水銀を垂れ流し、海を壊し、命を奪っていった。原因が明らかになってからも排水を止めず、被害は拡大した。永野三智さんは各地に講演に出かけ、行政と掛け合い、水俣病事件を繰り返さない世の中に一歩でも近づくようと寝た子を起こし続ける。水俣病の終わりとは何か。戦争、基地、原発、気候危機、終わらない問題に直面している私たち。なぜ排水は止まらなかったのか…。国とは何か、文明とは何か、考え続けた。この本と合わせて「苦海浄土(三部作)」石牟礼道子著もお薦めです。

(関西 池側恵美子)



「海に行けば、あとはなーんも、いらんかな」魚(いお) 湧く海と呼ばれた不知火海。貧しいながらもお腹いっぱい魚介類を食べて暮らし

ころからHP : <http://korocolor.com/book/minasaka.html>



① んさか通信 ★ ジュゴンの ①

今年も宜しくお願い致します

2020 年がスタートしました！皆様に実り多い1年となりますように。

沖縄では日本一早く咲く桜の季節が到来し、製糖期に入りました。さとうきびを運搬するトラックと製糖工場は3月末頃までフル稼働となります。エイエイオー！



そして年明け早々残念なニュースも・・・1986 年以来 36 年振りに豚コレラが確認されました。拡散防止策により感染の確認されたうるま市(中部)の食用ブタ約 2800 頭(1 月 10 日現在)が殺処分され地中に埋葬されました。処分対象には希少な在来種のアグー豚も含まれているそうです。ブルーシートに包まれて地中に埋められていく映像は胸が痛みます。現在は3つの豚舎からの感染が確認されています、どうかこれ以上広がらない事を願います。

今年こそ辺野古の新基地建設工事が止まりますように！！！！  
(沖縄 小平裕美)

報告

2019ZENKO スピーキングツアー HYOGO 参加報告



12月7日に西宮市立勤労会館で行われた ZENKO スピーキングツアーは毎年、全国各地をリレー形式で回るまさしくツアーです。今年も沖縄辺野古から奥間政則さんと韓国からノ・ミンギュさんを招待。沢山のお話を聞くことができました。

奥間政則さんは、沖縄ドローンプロジェクトを立ち上げドローンによる辺野古の空撮を行っている方です。ドローン規制が日々強化される中で活動されるのは大変なことです。また1級土木施工管理士の資格もお持ちで辺野古の新基地建設についていかにもろい構造のものかお話をしてくれました。またそれを知らない防衛省の官僚についても「現場を見ないで頭でしか考えていない」と一刀両断。

次は韓国軍のチェジュ島第2空港建設反対を訴えてハンガーストライキをされていたノ・ミンギュさん。ハンガーストライキの影響で痩せていて、いただいたお写真とは印象が随分違っていました。まだ食事も軽いものしかいただけませんが、ハンガーストライキの意味や当時の様子などを熱心にお話していただきました。兵庫集会では会場の壁に当時の状況などがかけられたものを張り出していたので分かりやすくてよかったです。

会場は席がいっぱいになるほど多くの方が詰めかけていて関心の高さが伺えました。私たちSDCCはグッズを販売、新しくジュゴンケーキを作ってみましたが発売することができました。ありがとうございました！

(関西 上田千鶴)



# INFORMATION



## 《 今後のスケジュール 》

### <首都圏>

- ・2/3(月)18:30～ 防衛省前行動 市ヶ谷防衛省前
- ・2/5(水)18:30～20:30 辺野古・大浦湾「ホープスポット 認定記念セミナー&映画「ZAN～ジュゴンが姿を見せるとき」上映会 主催 ピースポートセンターとうきょう
- ・2/7(金)18:30～ 「辺野古 うそ・ほんと」  
場所:文京区民センター・3A  
主催:辺野古への基地建設を許さない実行委員会
- ・2/9(日)13:00～ 沖縄に連帯するつどい・「ドローンの眼」  
上映会 13時～ 場所:大田区入新井集会所 Luz 大森4階  
主催:ZENKO 南部  
共催:ジュゴン保護キャンペーンセンター、  
平和・環境・人権しながわ

### <関西>

- ・じゅごん茶話会 2/27(木)3/26(木)14:00～ @SDCC 関西事務所
- ・2/1(土) すいた環境教育フェスタ 千里リサイクルセンター(くるくるプラザ) 10:30～15:30
- ・2/22(土) 大阪のうたごえ祭典2020前日祭 沖縄への連帯  
15:25～16:50 フェニーチェ堺会議室
- ・2/23 神戸市会に辺野古請願を求める大署名運動スタートアップ  
集会 18:00～20:30 兵庫県私学会館

### <全国・国際>

- ・2/3(月) ジュゴン訴訟控訴審 米国連邦控訴審裁判所
- ・3/21(土) 第20回SDCC総会 14:30～16:30  
大阪 ドーンセンターセミナー室
- ・4/18(土) 4/19(日) アースデイ東京 代々木公園

## <第20回 SDCC 総会の案内>

2月3日に開かれる米国ジュゴン訴訟控訴審公開審理をめぐる情勢をふまえて、1年間の方針を議論します。参加をお願いします。

- ・とき:3月21日(土) 午後2時30分～4時30分
- ・ところ:大阪ドーンセンター・セミナー室  
(京阪電車・地下鉄谷町線 天満橋駅下車徒歩5分)

会員以外の方も参加できます。ジュゴン訴訟など沖縄ジュゴン保護・辺野古新基地ストップの国際的動きを知るために、みなさまの参加をお待ちしております。



みなさまと沖縄ジュゴンにとって、今年がよい年になるよう、がんばっていきましょう

## NEWS

### 署名 7123 筆提出しました。ひき続きご協力を！

11月23日に、みなさまのご協力で署名 7123 筆を環境省に提出しました。署名は要請文と体裁を改めて、引き続き集めます。ご協力をお願いいたします。署名用紙のダウンロードは以下です。

<http://www.sdcc.jp/petision/petision2020.pdf>

防衛大臣にハガキを送る“OKINAWA ジュゴンを救え！大騒ぎキャンペーン”も続行中です！

◆ハガキお送りします ⇒必要枚数、送り先を事務所にお知らせください  
(送料・カンパお願いします)

◆HPからプリントアウトもできます

### Editor's Note

新年3日 イラクのバグダッドでイランの革命防衛隊司令官がアメリカに暗殺されました。「第3次世界大戦か?!」という緊張が世界に走る中、安倍晋三はなんとゴルフ三昧でした。戦争をおこさせない努力が世界中で求められているとき、われらの「総理」の態度は、世界に類のないものでした。この「総理」をこれ以上なからえさせるのは主権者の恥です。(M)

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.108 2020年1月28日発行  
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)  
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1  
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377  
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)  
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号 京橋ベース  
(旧野口ビル) 302号 TEL/FAX 06-6353-0514

### 会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:  
加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター  
口座番号 00140-9-660199  
他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店  
口座番号 普通 8159084

\*ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします\*  
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに！